

買い物客でにぎわう広島市中区本通。3日午後、突然、道行く人に紛れていた若者が路上で踊り出す「フラッシュモブ」と呼ばれるパフォーマンスが始まった。踊り手は広島市立大学ダンス部の学生たち。目的は、過疎化が進む島根県のある山あいの集落をPRすることだった。

多くの買い物客が見守るなかで踊る広島市立大の学生たち



仕掛け人は「地域おこし協力隊」として島根県美郷町比之宮地区に移住した、横浜市出身の小川珠奈さん(24)と静岡県出身の内山伸昭さん(50)。
小川さんらが町で採れたネギとプロッコリーを持って踊り始めると、多くの人々が足を止めて人だかりを作った。続いて、市立大ダンス部の学生が息の合ったパフォーマンスを約5分間、披露。その後、集まった人たちにチラシを配った。
比之宮地区の人口は282人で、約半数が65歳以上の高齢者。若者にUIター



島根の山村PR 踊って目立て

中区の路上 市立大生が助っ人



広島市の中心街で突然、島根県美郷町の小川珠奈さん(左)らが野菜を持って踊り出した—いずれも広島市中区本通



地域おこし協力隊

2009年度に始まった総務省の事業。地方に移り住み、地域活性化のための活動をする人を自治体を受け入れる。総務省が最長3年、隊員1人あたり年35

0万円を上限に特別交付税で補助する。昨年7月現在で4府県169市町村で473人が活動。20〜30代が約7割を占める。県内では三次市、庄原市、神石高原町に計7人、島根県内では9市町に計35人。

ンを呼びかけようと「最も近い都会」の広島をPR場所を選び、市立大ダンス部の学生に協力を頼んだ。

小川さんらが昨年、広島市佐伯区湯来町で食用の淡水魚ホンモロコの養殖いけすを見学した際、市立大の山口光明准教授やゼミ生に出会ったのがきっかけで交流が始まった。依頼を受け

たダンス部3年の土井瑛美香さん(21)は「少しでも地域の力になれるなら、協力したい」。フラッシュモブは初めてで、ダンス部の1、2年生24人が約1カ月間、練習を重ねた。

小川さんは「就職するといい選択肢だけでなく、起業などいろいろな生き方があることを、美郷町の取り

組みを通じて学生たちに知ってほしい」と語る。

ダンスの動画はインターネットの動画サイトにアップ。内山さんは「ネットで動画を見た人が地区のホームページも見てください」と期待する。

駆けつけた美郷町比之宮地区の自治会長、福島教次郎さん(63)は「おじいさんには思いつかないやり方だった」。小川さんらは今後も広島市でイベントを開きたいという。土井さんも「今度はほかの大学のダンス部にも声をかけて、一緒にやりたい」と話した。

(清宮涼)